

三位一体の主日

2016.5.22

ヨハネ 16・12-15

今日は三位一体の主日です。今日の三位一体の主日のミサで、わたしたちは何を祝い、何に感謝をささげるのでしょうか。

先週の日曜日、わたしたちは聖霊降臨の主日を祝いました。先週の日曜日の第一朗読で聞いた、「使徒たちの宣教」は、イエスの昇天の後、聖霊が圧倒的な姿を伴って弟子たちの上に降ったことを告げていました。聖霊降臨によって、聖霊に満たされた弟子たちは、それまでのイエスに対する不信仰と、無理解の闇を吹き払われて、力強くイエス・キリストを証し、宣べ伝える者とされました。その弟子たちの宣教の中心は、「ユダヤの指導者たちの無理解のゆえに、十字架に架けられて死なれたイエスが、神の力によって復活させられた。神はイエスを死者の中から復活させられた」ということです。福音書に語られている復活されたイエスの弟子たちへの現れの場面では、まだ本当には信じきれていなかった弟子たちは、聖霊降臨によって決定的にイエスの復活を信じる者とされ、イエスの復活が意味することを理解したのです。十字架の上に死んだイエスを神が復活させられたのなら、イエスのあの十字架の死は、意味のない、この世の力に屈した、無残な最期ではなかったこととなります。事実、神はこの世に対してそのことを示すために、十字架に架けられて死んだイエスを復活させられたのです。弟子たちが体験した復活のイエスとの出会いは、十字架に架けられて死に、神によって復活させられたイエスとの出会いだったのです。このことを宣べ伝えることが、イエスの復活についての弟子たちの宣教の出発点でした。

イエスの復活を宣べ伝える弟子たちは、そのことによってまた、イエスの十字架の死の意味を人々に語り始めることとなります。何故かと言うと、十字架に架けられて死んだイエスを神が復活させられたのなら、何故イエスは十字架に架けられて死ななければならなかったのかということが問題となるからです。何故、神は前もってイエスが十字架に架けられて死ななくてもすむようにしてはくささなかったのかということが問われることになるからです。ここに人間の理解を超える、イエスの十字架の神秘があります。

イエスの十字架の死の意味を解き明かす弟子たちの宣教は、今日の福音のイエスのことばにあるように、聖霊が弟子たちの心を開いて、イエスが生前ご自分の死について語っておられたことばを、弟子たちに思い起こさせてくださったことによって可能となったのです。聖霊の光に照らされて、自分たちが経験

したイエスのあの十字架とイエスの復活という出来事を思い巡らす弟子たちの心に、聖霊はイエスがご自分の十字架について語られたことばを蘇らせてくださったのです。聖霊に照らされた弟子たちの心に蘇ったイエスのことばに導かれて、弟子たちはイエスの十字架に示された、神の愛の神秘を理解していったのです。

イエスはあのような十字架の死を、それが自分に託された父なる神からの使命として、父なる神のみ旨として自ら進んで受け入れられたのでした。何故、イエスはあのような十字架の死を自分に対する父なる神のみ旨として受け入れることが出来たのでしょうか。それが、イエスが生きられた神の子としての生き方そのものだったからです。十字架の死をも、父なる神のご自分に対するみ旨として受け入れることによって、イエスは、神の子としての父なる神に対する絶対的な従順をこの世の人々に示されたのです。そのような、父なる神に対する絶対的な信頼と従順によって、イエスはこの世の人々に、すべての人が従うべき、父なる神の存在を知らしめたのです。そのような絶対的な信頼と従順に父なる神は必ず応えてくださることを、イエスの復活はわたしたちに示しています。

イエスはその全存在をもって信頼し、そのみ旨に従い通した父なる神はイエスの信頼と従順に応え、イエスを復活させることによって、イエスはその全生涯を通して指し示した通りの父なる神であることを、わたしたちにお示しになられたのです。イエスの十字架の死と復活を通して、わたしたちはこのような父なる神とイエスの関係を知るのです。そしてその関係はイエスが神を父とお呼びし、ご自分を子と言われる関係であることを知るのです。イエスの十字架の死と復活は、人間であるイエスの神への絶対的な服従と、それを可能にした人間の限界を無限に超えた人となられた神の子の、父なる神への愛と従順の姿を示しています。イエスの十字架において、わたしたちは人となられた神の子イエスと、その父である神を結ぶ、神の愛の神秘を垣間見るのです。

天地創造以来、創造主である神を無視し、全てのものの父である神のみ旨に背き続けるすべての人間の罪は、人となられた神の子、イエス・キリストのいのちを投げ打った、父なる神のみ旨に対する従順によって償われたのです。そのためにこそ神の子イエス・キリストは、人となってわたしたちの世界に来てくださり、十字架の上に死んでくださったのです。それが父なる神のみ旨であったのです。そのようにして、ご自分の子を人の世に遣わし、そのご自分の子の十字架の死によって、すべての人の罪を贖うことが、父なる神の、人間であるわたしたちへの愛のご計画であったのです。イエスの十字架と復活において、わたしたちは父なる神とそのひとり子であるイエスのわたしたちすべてのもの

に対する神の愛を知ったのです。それほどまでにわたしたちを愛しておられる神の愛を知ったのです。この愛において、全てのものの創造主である父なる神と、すべての人の罪を贖うために父なる神のもとからこの世に来られた神の子イエス・キリストは、全知全能の愛の神として一体なのです。

イエスの十字架の死と復活において示された、この神の愛を弟子たちに悟らせてくださったのは、聖霊降臨の日に弟子たちのもとに来てくださった聖霊ご自身です。そしてその聖霊は、弟子たちから始まる教会のうちに働かれ、教会の宣教を通してわたしたちをイエスの名の下に呼び集め、わたしたち一人ひとりをイエスの十字架と復活によって示された神の愛の中に招き入れてくださるのです。

教会の秘跡を通してわたしたちのうちに注がれた聖霊は、弟子たちの心を開いてくださったように、わたしたちの心をも開いて、イエスの十字架の死と復活において示された、わたしたちへの神の愛を悟らせ、わたしたちをその愛にあずかる者としてくださるのです。このようなわたしたち一人ひとりに対する愛の働きを通して聖霊は、父なる神とその御子、わたしたちの主イエス・キリストの愛と一つに結ばれ、わたしたちをその愛に招いておられる神のお姿をわたしたちに示しておられるのです。

今日三位一体の主日、わたしたちは今年も教会の典礼において記念し、祝って来たイエスの十字架の死と復活が、わたしたちに示された、わたしたちを招く神の愛の神秘であることを、父と子と聖霊のみ名を呼び求めつつ味あわせていただくのです。そのためにも、このミサの中で、あらためて聖霊の助けを願ひ、わたしたちが洗礼によってこの身にいただいている神の愛の神秘の恵みをより深く悟り、味わい、わたしたちへの愛そのものである三位の神に感謝をさげることが出来るよう祈りたいと思います。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高